

第6回地方独立行政法人公立甲賀病院評価委員会 会議録概要（書面会議）

日 時：令和3年3月3日（水）から令和3年3月18日（木）

出席者：福島委員長、周防委員、木村委員、石井委員、大橋委員、甲斐切委員、
廣原委員

1. 5疾病に対する医療の取り組み（がん）

- ・本年度はコロナ禍の影響で、がん検診を受検しない方が多々あり、中でも大腸がん検診の未実施が目立つ。便潜血反応検査陽性者は公立甲賀病院へ大腸内視鏡検査を依頼し、がんの早期発見・治療に繋がっており、その都度の迅速な対応を高く評価する。
- ・コロナ感染拡大の時期であり、どの医療機関も手術件数、救急受入れ件数が激減している中、がん治療件数は、目標を達しており、高く評価できる。また、緩和ケアチームとしての地域への活動発展は今後に期待できる状況である。
- ・地域でのがん患者登録数との比較も必要である。

2. 5疾病に対する医療の取り組み（心筋梗塞）

- ・冠動脈疾患である狭心症疑いでの心臓カテーテル検査や、心不全での入院治療を紹介するケースは多く、その都度の迅速な対応を高く評価する。
- ・心筋梗塞のカテーテル検査が激減しているのは、コロナ感染拡大により救急搬送患者の選別が困難を極めたと推察する。

3. 5疾病に対する医療の取り組み（脳卒中）

- ・高齢化に伴う脳卒中患者の素早い救急受入対応を実感しており、高く評価する。
- ・フルタイムでの専門医当直体制の実現の見通しはどうか。

4. 5疾病に対する医療の取り組み（糖尿病）

- ・糖尿病腎症による透析導入のケースを減らすべく、行政を巻き込んだ病診連携が確立しており、慢性腎臓病の病診連携とも相まって、糖尿病内科、腎臓内科の対応を高く評価する。

5. 5疾病に対する医療の取り組み（精神疾患及び認知症）

- ・認知症の病型診断と初期治療の開始にあたり、脳神経内科との連携ができている。また、パーキンソン病における病診連携の勉強会が立ち上がり、新たな取り組みへの尽力を高く評価する。

6. 地域の医療機関、介護施設との機能分化連携強化

- ・コロナ感染拡大期において、患者さんの流れが大きく変わってきていることを確認する必要がある。医師会とのかかわりや、地域の介護施設とのかかわりを今一度確認し、アフターコロナの時期に新しい戦略を持つ必要がある。
- ・上半期事業報告書を確認したところ、新型コロナウイルス感染症対応も大変な中、年度目標に関しての詳細な法人自己評価内容等から、感染防止を優先にして組織全体で、チーム活動も推進しよく頑張っておられる。意見として感染症医療に関して、行政との連携強化だけでなく、地域の介護施設等からの相談や感染防止対策の指導等もされていると思うので自己評価に記載されても良い。
- ・甲賀病院の地域支援病院としての役割に関し、健康を維持し病気の予防、治療に関し通常かかりつけ医を利用することが当たり前になっているが、その中で専門的な検査治療のため、公立甲賀病院への紹介治療がスムーズになされるためには、情報の共有、連携がなされて活用されることが必要であり医療資源の効果的な活用が望まれる。ホームドクターと地方総合病院の連携により深い治療体制ができることを希望する。

8. 医療の質の向上

- ・コロナ患者の受け入れは、地域医療に密接にかかわる病院として十分な機能を果たされたと評価する。今回の感染対策において、甲賀・湖南地域では、行政の誰が主導権を持って支持を出されたのか、その中で公立甲賀病院の役割はどのようなものであったのか、また他の市町村との違いは何であったのかを記録することが、今後の新しい感染対策に役立つと思われる。
- ・コロナ感染病棟の医療スタッフ、特に看護師さんが疲弊しない対策も講じる必要がある。私の知っている事例では病棟のレッドゾーンのトイレの消毒掃除は、委託業者のレベルの高いプロにお願いし、それまで担当していた現場の看護師さんたちがとても楽になったという事を聞いている。
- ・コロナ感染防止についての院長からの定期的なメッセージ発信についてもとても前向きな、真剣さが伺える。
- ・インシデントレベル0 報告増加に向けた取り組みは素晴らしい事だが、レベル2、3等の現状の数字も本文に入れた方がいいと思われる。
- ・個人情報保護や感染対策の研修に取り組んでおられる事は、とても評価が高いと思う。

9. 市民・患者サービスの向上 (患者中心の医療の提供)

- ・人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス」について、各病院で具体的な取り組みはまだまだである。公立甲賀病院の取り組みを広報に載せるなど、市民を巻き込んだ企画を検討されてはどうか。

10. 医療従事者の確保育成

- ・昨年から今年にかけて、コロナ禍において、新型コロナ入院病床の指定病院として、大変苦勞されていることと推察され、本当に頭の下がる思いである。世間で言われている医療従事者への風評被害によって勤務が困難になる看護師の方などがいるのであれば、対策が必要である。

11. 経営基盤の安定化について

- ・コロナ感染拡大期に医業収益を去年より増加されたのは各位が努力された結果と評価する。しかし、経常収支がマイナスのままでは、来年度以降の計画に影響があるので、早急な立て直し計画の検討が必要である。
- ・様々な指標が公開され、血のにじむ様な経営努力をされていることが伺えるが、これらの指標が滋賀県内の他の公的病院と比較してどの様な位置にあるかも検討が必要である。
- ・患者数減少について、コロナ禍において外来患者及び救急患者の受療行動が抑制されたと記載があるが、コロナ禍がいつまで続くかわからず、コロナ後も患者の経済的困難、行動変容等により受療行動が元に戻るかわからないので、収入面の予想は安全性を見て少し厳しめにしておくべきではないかと感じた。
- ・経費削減として新たな事業（照明 LED 化）の実現はどうか。

以 上

<資料>

- ・地方独立行政法人公立甲賀病院令和 2 年度に係る上半期事業報告書
- ・年度計画策定、目標指標、実績数値の推移表
- ・入院・外来患者数の動向表
- ・救急患者数の状況
- ・公立甲賀病院事業会計 概況表